

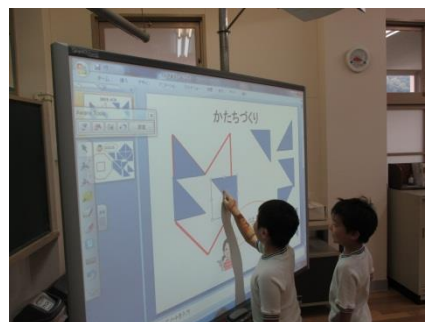
## 1 はじめに

ICT機器の活用は児童の学習意欲を高めるとともに、学び合いを活性化させ、学習内容の理解を深めることにつながる。そのためには、教師がテレビや電子黒板、タブレット型パソコンで教材を提示するだけでなく、児童がICT機器を操作しながら、自発的に学び合うよう促す工夫が大切である。

算数科の授業について学び合いの充実を図るためにICT機器を活用した実践例を紹介する。

## 2 電子黒板の活用事例（1年生「いろいろなかたち」）

「三角形の色板を敷き詰めて、様々な形を作り出す」学習で、導入問題に電子黒板を活用した。まず、形を作り上げるのに、何枚の色板が必要かを全体で考えた。そして、電子黒板に色板の数を書き込みながら、分け方を話し合い、児童同士で正解を導くことができた。形を作成する時は、電子黒板を操作画面にし、電子黒板上で図形を実際に移動させながら形を作る活動をした。自分で図形を動かすという体験を通して、児童が意見交換しながら学習を進めることができ、効果的であった。



【色板の敷き詰め方を考える】

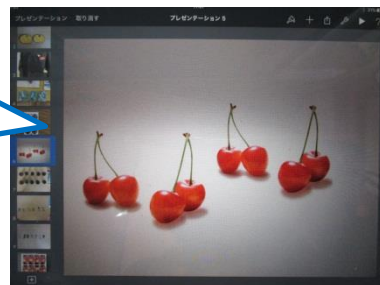
## 3 タブレット型パソコンの活用事例（2年生「かけ算」）

「九九づくり」の導入で、タブレット型パソコンのプレゼンテーション機能を使い、2の段の九九を作った。2の段になる場面とその他の場面の絵を交ぜたプレゼンテーションを用意し、グループで話し合いながら取捨選択して、2の段を順番に並べていく活動をした。何が一つ分に当たるか意見を出し合って学習を進めることができた。問題にした画像には、普段よく目にするものを活用したことで、身の回りの物を数えるときに九九が使えることを意識することができた。



【2の段の九九に並び替える】

スライドの順番を、2の段の九九になるよう並び替える。



【タブレット型パソコンで提示した問題】

3の段の学習では、前時の活動を生かし、3の段になる場面の九九をグループで作る活動をした。自分たちで3の段の九九を表す場面を作り出し、画像に取り込むという課題を与えたことで、「一つ分の数×いくつ分」がそれぞれ何に当たるかを十分に話し合いながら活動を進めることができた。子どもたちが取り込んだ画像は、次時の九九練習に活用することができた。自分たちで、九九を表す場面を作り出しながら、九九を構成する活動を進めていくうちに、答えがいくつずつ増えていくかに気付き、九九の性質について理解を深めることができた。



【3の段の九九をグループで作る】